

*江戸東京博物館は大規模改修工事のため2026年春(予定)まで休館しております。

令和6年度 新収蔵品の紹介



はなだしゅすじうめたちきちよううちかけ
縹緋子地梅立木模様打掛
江戸後期

CONTENTS

- ・研究の散歩道 京都の魚屋、東京へ
- ・スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博 大正ロマン浅草編」をリリース！
- ・図書室からお知らせ

令和
6年度

新収蔵品の紹介

令和6年度も多くの博物館資料を収集することができました。
その一部をここに紹介いたします。

※表紙もご覧ください。

青の婚礼衣裳

はなだしゅすじうめたちきもよううちかけ
縹縹子地梅立木模様打掛

小袖を着て帯を締めた上から羽織るように着る打掛は、身丈・身幅とも小袖よりやや大きい裾長の表着で、女性が用いる衣裳です。本作品は、光沢に富んだ縹（はなだしゅす）明度の高い青色の縹子地で、デザインは裾中央やや右寄りから木が立ち上がる「立木模様」となっています。

金の刺繍で施された梅の木の前と枝の捻れた形は、樹齢80年以上の古木にみられる樹形で、彩糸で表された梅花の表と裏（裏梅）、つぼみの形も写実的です。

近年の研究成果で、青系統の地色の打掛は、富裕な町人女性の婚礼に用いられた衣裳として、複数年伝世することが指摘されています。長寿を祈念した梅樹の吉祥モチーフは、人生儀礼の晴れの場にふさわしく、縹色の打掛をまとう花嫁を輝かせたことでしょう。

（学芸員 西村直子）



江戸後期 資料番号 24200003

描かれた吉原の日常

よしわらしゅうにときがじょう
吉原十二時画帖

旗本出身で浮世絵師に転身した鳥文斎栄之（1756～1829）が、吉原の一日を十二刻に分け、十二図に描いた肉筆の画帖です。

第一図の早朝「卯刻」から第十二図の「寅刻」まで順に、酩酊する客の追い出し、引手茶屋で刀を受け取る侍、禿の髪結いと初鯉売り、営業前の遊女、茶屋の店先での餅つきと引初めのそば、昼の張見世の遊女、桜樹のもと提灯を運ぶ男衆、座敷に呼ばれていく芸者、酒肴を楽しむ芸者たち、引き四つの拍子木を打つ男衆が行き交う夜道、馴染み客に手紙を書く遊女、籬の掃除をする男衆、などが描かれています。

表向きの場ではなく人々の生活に焦点を当てており、吉原を支える多様な人々の日常をよく伝えています。

（学芸員 丹藤真子）



1804～1818年（文化年間） 資料番号 24200013

文化の移り変わりを表現した「おもちゃ絵」

ばんぶつびんすも
しん板物品角力づくし

本資料は、文明開化により流入した新文化を相撲形式で紹介する「おもちゃ絵」です。各マスに「ちょんまげ頭と散切り頭」、擬人化された「饅頭とパン」、「和酒と洋酒」など、新旧文化の相撲の取組の様子が描かれています。ちょんまげ頭は散切り頭に負け、饅頭とパンは接戦、和酒は洋酒に勝つなど、描かれた勝敗や接戦の具合から、庶民が新たに外国からもたらされた文化をどの程度受け入れていたのかを読み解くことができます。

ところどころ線がかすれている様子からは、版木が摩耗するほど大量に、そして長期間摺られた需要の高さがうかがえます。

外国の文化への庶民の関心と受容の様相を知ることが出来る出版物として興味深い資料です。

（学芸員 石隈聡美）



明治前期頃 資料番号 24200060

京都の魚屋、東京へ

学芸員

宮本花恵・文

江戸東京博物館デジタルアーカイブスでは、資料全点のデジタル化を目指し、各種の作業に取り組んでいる。その過程のデータ整理作業に伴い、いくつもの知見を得た。その一つとして、2002年寄贈の奥八郎兵衛家資料を紹介したい。この資料群は約600点からなり、主に町方・公家の「食」に関する文書から構成される。

奥八郎兵衛家(以下、奥家は、京都で河内屋と称し、宮中に魚を納めていた。その祖である奥八兵衛(〜1669)は、後光明天皇の崩御に際し、生前に儒教を重視していた天皇の遺志を尊重して土葬するよう懇願、天皇の火葬が廃止される契機を作った。その忠義

もない「魚精方」という皇居に魚類を納める御用を「河八」(河内屋奥八郎兵衛)が承ったとある。そのため本資料群には、奥家が職掌上知り得て書き留めた記録も含まれる。明治初期における宮中の動向を伝える資料である。

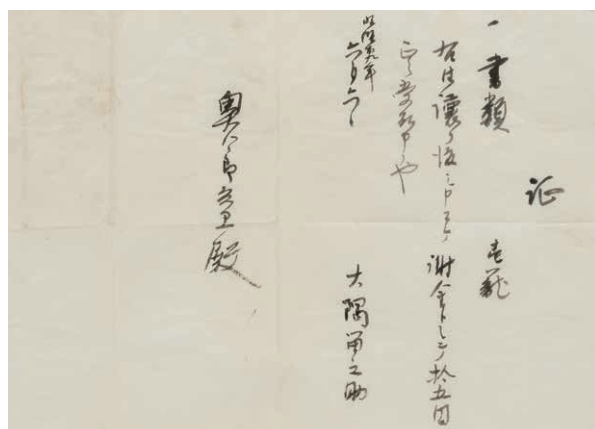
また奥家は、永田町の日枝神社の元境内地で「星岡茶寮」を経営した。この茶寮では、茶の湯のほか古式の食事も提供され、上流階級の社交場となった。

そのためか、同家は古式の調理法に関する古記録と思われる一式を1896年(明治29)に15円(現在の約30万円)で購入している(写真①)。

この古記録の元の所有者は天皇の朝夕の御膳を供進し、節会などの酒肴を担当する地下官人であった大隅家である。例えば、その一つに「正月三節会御膳供進之次第」(写真②③)が挙げられる。宮中の正月の節会で供された配膳が詳細に描かれたものだ。

奥書によると、1685年(貞享2)の作成で、本資料をもとに天覧に備えて新しく書写した一巻を官庫へ納めたとある。有職故実を知る上でも貴重だ。

奥家は、生業に因み「食」に関する文書を記録し収集した。さらなる資料活用に向け理解を深めたい。



写真①: 領収証 資料番号 02004789

から明治維新後に実家は士族に列せられ、さらに八兵衛に正五位が追贈された。さて篠山克己著『雲井の雁』(1908)によると、明治奠都にと



写真②③: 正月三節会御前供進之次第 資料番号 02004605

図書室から
お知らせ

本の帰還！

当館の図書室には、本を保管しておく書庫があります。閲覧室で自由にご覧いただける本はごく一部で、ほとんどの図書は書庫に収蔵しています。改修工事期間中、図書は一時的に外部の倉庫に保管していました。リニューアルオープンに向けて、その本が約3年ぶりに戻ってきました。

図書が届くと、まず箱から取り出して破損や傷みがない

か確認します。その後、本を書棚の定位置へ請求記号順に配架していきます。この戻しの作業が再開館まで続きます。本誌が出る頃には、ほとんどの図書が書庫に収められているでしょう。リニューアルオープンまであと少し。皆さまにご利用いただける日を待ちながら、図書室の準備を進めています。



スマートフォンアプリ

「ハイパー江戸博 大正ロマン浅草編」をリリース！

ご好評をいただいているスマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」の第4弾となる、「大正ロマン浅草編」を5月22日にリリースしました。本作の舞台は大正時代の浅草。高塔・浅草十二階をランドマークに、活動写真や浅草オペラ、外食に買い物と、様々な目的で人々が集う街の様子を、当時の写真や地図、建築図面などをもとに再現しました。プレイヤーは記憶を失った探偵見習いの女性となり、依頼された事件の手掛かりと、自身の記憶を探して浅草の街を駆け巡ります。画面も従来の縦から横画面へと変わり、より没入感を持って遊べるようになりました。是非ダウンロードして、大正浅草のロマンを体感してみてください。

(学芸員 沓沢博行)



アプリの
ダウンロードは
こちらから

展覧会のお知らせ

巡回展

「どうぶつ百景

—江戸東京博物館コレクションより」

2025年7月25日(金)～9月21日(日)

会場：富山県水墨美術館

休館日：月曜日(8月11日、9月1日、9月15日は開館)、9月16日(火)

江戸・東京に住まう人々にとって、身近な存在だった動物。その関わり方は様々なかたちで表現されてきました。

本展は江戸時代から昭和にいたるまでの人と動物の姿を、錦絵や版本、工芸品や玩具などの当館所蔵品を通して紹介する展覧会です。東京、山梨、愛知会場を経て、7月より富山に巡回します。



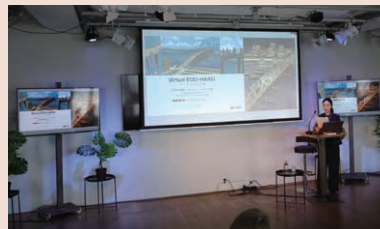
国際交流事業報告

CAMOC・COMCOLの合同年次会議に参加しました！

2024年10月9日～11日にオランダのアムステルダム博物館で開催された ICOM-CAMOC (都市博物館のコレクション・活動国際委員会)、ICOM-COMCOL (コレクション活動に関する国際委員会) の合同年次会議に参加しました。31の国・地域から約150人の博物館関係者が集まり、それぞれの課題や取り組みについて発表をし、意見を交換しました。

当館は博物館のデジタルへの取り組みをテーマに、「ハイパー江戸博」について発表をしました。海外に向けて江戸博の活動を発信するよい機会となりました。

(学芸員 橋本由起子)



休館情報

当館は2022年4月1日から2026年春(予定)まで大規模改修工事のため休館中です。休館中も館外の他会場等を活用した事業を実施しています。詳細につきましては確定次第、ウェブサイトやSNS等でお知らせいたします。